

# カトリック仙台司教区・カリタスジャパン 東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗  
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12  
カトリック仙台司教区事務局  
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378  
1) 義援金振替口座：02260-9-2305  
名義：カトリック仙台司教区本部事務局  
2) 支援金振替口座：00170-5-95979  
名義：カリタスジャパン

今回のNL(ニュースレター)では、各ベース(米川・石巻・釜石)のクリスマスの模様と気仙沼復興商店街プロジェクトのリーダー坂本正人さんへSDSCスタッフの稲江佐和子の独占インタビューをお届けします。

## Christmas おめでとう！

**IN 米川** 私たちは、志津川小学校の仮設住宅で、クリスマスパーティーを開こうと、他のボランティアグループである「ユナイテッドアース」と話し合いました。



子どもからお年寄りまでみんなでクリスマス！

17日、10時半に集合し、参加して下さる方々と私たちで、ちらし寿司を作りました。できあがったきれいなお寿司をおいしくいただき、リクレーションが始まりました。プレゼントを用意したビンゴ大会ではみな盛り上がりしました。

参加して下さった仮設の方々は、小さいお子さんからお年寄りまで約30人で、私たちの出し物「ジェスチャー伝言ゲーム」は大好評を博しました。

**IN 石巻** 石巻ベースでは、常時、石巻市内と東松島市内にある仮設6カ所で、定期的に「カリタスサロン」お茶会を開いていますが、そのうち、4カ所でクリスマスの集いを行いました。どの集いにも多くの方が参加して下さり、一緒にクリスマス飾りを作ったり、聖歌を歌ったり楽しいひとときを喜んでくださいました。23日には全国から集まった手作りクッキーにカードを添え、ベース前と近隣店舗前で通行者に配布して、1月28、29日のベース1階のオープンハウスをPRしました。



道行く人にベースオープンのピラまき、さむ〜！

**IN 釜石** 19日から23日まで、仮設住宅6カ所でクリスマスイベント。プレゼントを持ったサンタが全戸を訪問し、いつもお茶っこサロンをしている談話室ではクリスマス会を行いました。24日は釜石教会のクリスマス会。信者の方々とボランティ



いちた！にた！サンタ！

アでお祝いしました。100人を越える賑やかな会に、エンデルレ神父様も喜んでおられました。

25日は仮設の皆さんを教会にご招待してのクリスマス会。お茶っこの常連さんを中心に仮設からは約50人が来場して下さり、会場は90名超。連日の大賑わいでした。



釜石サンタはそりではなく台車で、煙突ではなく玄関から！

## 南町商店街復活秘話！

気仙沼復興商店街、通称「南町紫市場」が12月24日に営業を始めました。この日のために5月から商店街の皆さんを引っ張ってきた坂本正人さんに、あたらめてお話を伺いました。その内容をカリタスジャパンの立場からサポートしてきた稲江佐和子が紹介させていただきます。

質問① リーダーとして、心がけたことをお話ください。

時間がいくらかかったとしても、みんなの話を聞くことに努めた。52人いたら、考え方も様々。それぞれが言いたいことを言い出して、まとまりがつかない状態になる時もしょっちゅう。そのような時には、時間がいくらかかったとしても、みんなの意見を出してもらって、全員が話し合いに参加するよう心がけた。どうしても話がまとまらない場合には、私の考えをはっきり伝えた。常に自分のはっきりした考えを持つことは重要だと思う。自分が意見して、話が意図しない方向に向かうことはまれだったが、そうなった時には、「支援団体の意向」という言い方で伝えた。もちろん、カリタスと意見交換をした上で。例えば、共有トイレの清掃を業者にやってもらうか、持ち回りで自分たちでやるかという話で、どうしても時間が無いから業者に頼みたいという人が数人いて、「支援団体がこの話し合いを聞いて、大変がっかりしていた」と言ったら、話の流れが、自分たちでやるという方向に向いた。



左、坂本さん 中、奥さま 右、仲間の小野寺さん！

物資についても多くの寄付をいただいた。全員分寄付があるわけではないから、うちには何故ないんだ、という話をする店舗が出てくる。そのような時には、何も(支援が)無かったときのこと、いまだ支援がない商店街のことを話した。そうすると、たいていは支援があることに慣れつつあることに気が付いてくれる。一番つらかった時期は8月から9月にかけて。なかなか工事が始まらずに皆がいららしていた時。収入が無かったし、皆不安感がピークに達していた。大変な人にはアルバイトを探してきて紹介した。自分(坂本さん)には家があるし、歯の技工士という職業もある。こんな恵まれている自分が大変な人のために動かないで



南町商店街、オープン！

どうする、と常に思っている。皆と接する上で、一番に心がけたことは、うそをつかない、いい加減なことを言わないということ。信頼を得るために必要ということもあるが、その場しのぎのために、いい加減なことを言うと、

必ず後に自分が苦しくなることがわかっている。

質問② 商店街の皆さんに変化があったとしたら、その変化についてお話しください。

おかげさまで、全店舗とも、売り上げが津波前より増えている。皆、やさしくなったと思う。あいさつするようになったし、「ありがとう」という言葉を自然に使うようになった。すぐに他の人に手を貸すようになった。定例の会議以外の、臨時の会議にも、みんな出席するようになった。一人では何もできないことに気が付いたのだと思う。